
妊娠時一過性甲状腺機能亢進症

**A) hCG（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）は、軽度ですが
甲状腺を刺激する作用を持っています。**

妊娠初期（10週位）に、hCG（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）が過剰な場合は、hCGが甲状腺を刺激して、甲状腺機能亢進症になることがあります。これを、妊娠時一過性甲状腺中毒症と言います。悪阻（つわり）がひどいのが特徴です。

甲状腺受容体抗体（TRAb）は陰性でありバセドウ病ではないので、安静にしてhCGの値が落ち着くのを待つしかありません。つわりがおさまる頃には、



良くなります。妊娠時一過性甲状腺機能亢進症は、甲状腺ホルモンの値もほんの少し高い程度で治療の必要はありません。症状が重篤で、甲状腺機能亢進症

が原因ならヨウ化カリウム（メルカゾールやチプロパジールはバセドウ病ではないので使えません）の内服もありますが、児の甲状腺腫大も懸念されるため、使わないで済めば使わないに超したことはありません。

hCG（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）が低下してくる妊娠 14～15 週までには甲状腺ホルモンも正常になります。